

平成28年度
宮城県第二工業高等学校
学校評価資料

アンケート対象 生徒・保護者・教職員

調査実施期間 生徒 11月29日～12月 9日
保護者 11月29日～12月12日
教職員 11月29日～12月 9日

回収人数及び回収率		前年度	一昨年
生徒	49名／全50名: 98%	(98%	100%)
保護者	38名／全42名: 90%	(84%	84%)
教職員	30名／全30名:100%	(100%	100%)

- 1 学校評価における「生徒・保護者共通アンケート調査」実施要項（高校教育課）
- 2 学校経営改善のための学校評価（高校教育課）
- 3 平成28年度「教育計画体系・重点目標」
- 4 「学校評価」アンケート集計結果
 - (1) 評価方法
 - (2) データについて
 - (3) アンケート結果について
 - (A) 全体概要
 - (B) 生徒・保護者・教職員における回答比較
 - (C) 生徒・保護者・教職員における経年変化（過去3ヶ年）
- 5 自己評価を踏まえた学校関係者評価報告書（学校評議員4名による評価報告）

1 学校評価における「生徒・保護者共通アンケート調査」実施要項

高校教育課
第二工業高等学校

1 目的

各学校で実施している学校評価における「生徒・保護者アンケート」調査に、各学校共通項目を導入し、学校評価に客観性を持たせるとともに、学校と県教育委員会が情報を共有し、各学校の経営改善と県教育委員会の施策推進に役立てる。

2 共通項目の基本的な考え方

- (1) 各学校にとって、今後の学校経営改善に活きる項目とする。
- (2) 県教育委員会の施策に反映できる項目とする。
- (3) 質問の文言については、趣旨を変えない範囲において各学校の実情や地域の実態に合わせた表現を可能とする。

3 具体の共通項目・・・13項目

平成25年度より、「いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査」を踏まえた取組の徹底について（平成24年12月6日付け教育長通知）に基づき「いじめ問題」に関する取組について評価項目を追加している。

<生徒用>

- (1) 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている (学習指導)
- (2) 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている (生徒指導)
- (3) 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている (進路指導)
- (4) 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています (教育相談)
- (5) 学校として、各種大会に向けて、部活動は活発に行われている (部活動)
- (6) 学校として、生徒会活動は活発に行われている (生徒会活動)
- (7) 自分にとって、有意義な学校行事がある (学校行事)
- (8) 学校として、地域や伝統などと共に特色ある学校づくりに取り組んでいる (特色ある学校づくり)
- (9) 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている (防災教育)
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている (開かれた学校づくり)
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている (施設整備)
- (12) 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる (いじめ問題)
- (13) 自分にとって、学校生活は充実している (総合満足度)
- (14) 学校として、資格取得の指導に熱心に取り組んでいる (本校独自設問・資格取得対策)
- (15) 生徒にとって、目標を明確にした授業が行われている (本校独自設問・授業づくり)
- (16) 生徒にとって、専門的知識のもとに信頼できる指導が行われている (本校独自設問・授業力向上)
- (17) 生徒に対して、要望に応じ、授業時間以外での学習指導が行われている (本校独自設問・個別指導)

<保護者用>

- (1) お子さんの学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている (学習指導)
- (2) 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている (生徒指導)
- (3) お子さんの進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている (進路指導)
- (4) 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています (教育相談)
- (5) 学校として、各種大会に向けて、部活動は活発に行われている (部活動)
- (6) 学校として、生徒会活動は活発に行われている (生徒会活動)
- (7) お子さんにとって、有意義な学校行事がある (学校行事)
- (8) 学校として、地域や伝統などと共に特色ある学校づくりに取り組んでいる (特色ある学校づくり)
- (9) 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている (防災教育)
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている (開かれた学校づくり)
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている (施設整備)
- (12) 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている (いじめ問題)
- (13) お子さんの学校生活は充実している (総合満足度)
- (14) 学校として、資格取得の指導に熱心に取り組んでいる (本校独自設問・資格取得対策)
- (15) 生徒にとって、目標を明確にした授業が行われている (本校独自設問・授業づくり)
- (16) 生徒にとって、専門的知識のもとに信頼できる指導が行われている (本校独自設問・授業力向上)
- (17) 生徒に対して、要望に応じ、授業時間以外での学習指導が行われている (本校独自設問・個別指導)

4 評価方法

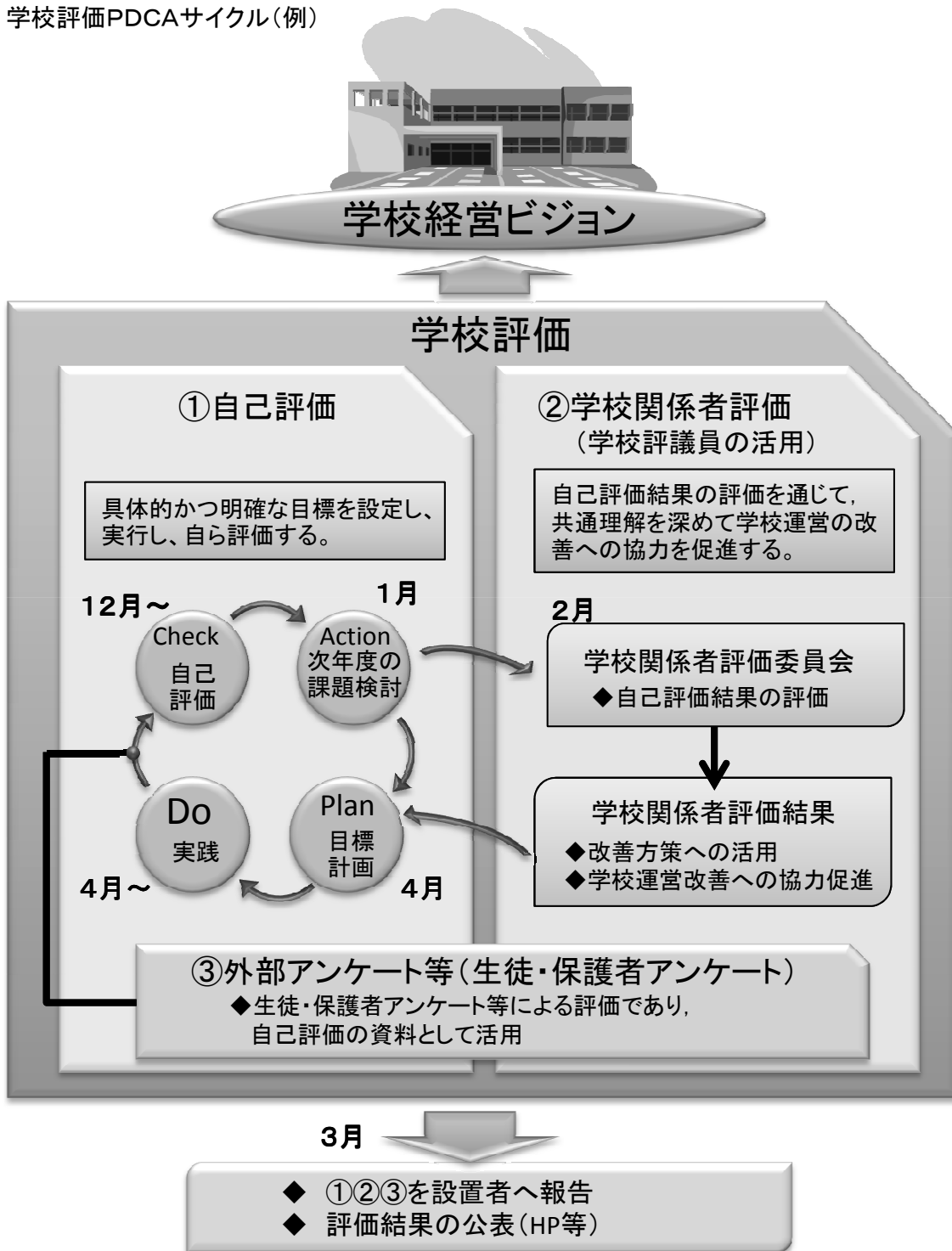
項目ごとに「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「思わない」の実数について集計する。

学校経営改善のための学校評価

1 課題

- ① PDCAサイクルに基づいて継続的な改善が図られるよう具体的な目標設定を行う。
- ② 学校関係者委員会（学校評議員の活用）の学校経営改善への協力を推進する。
- ③ C（自己評価）に偏した学校評価からPDCAを回す学校評価への改善を図る。

2 学校評価PDCAサイクル(例)



3 学校評価の改善策(生徒・保護者共通アンケート項目)

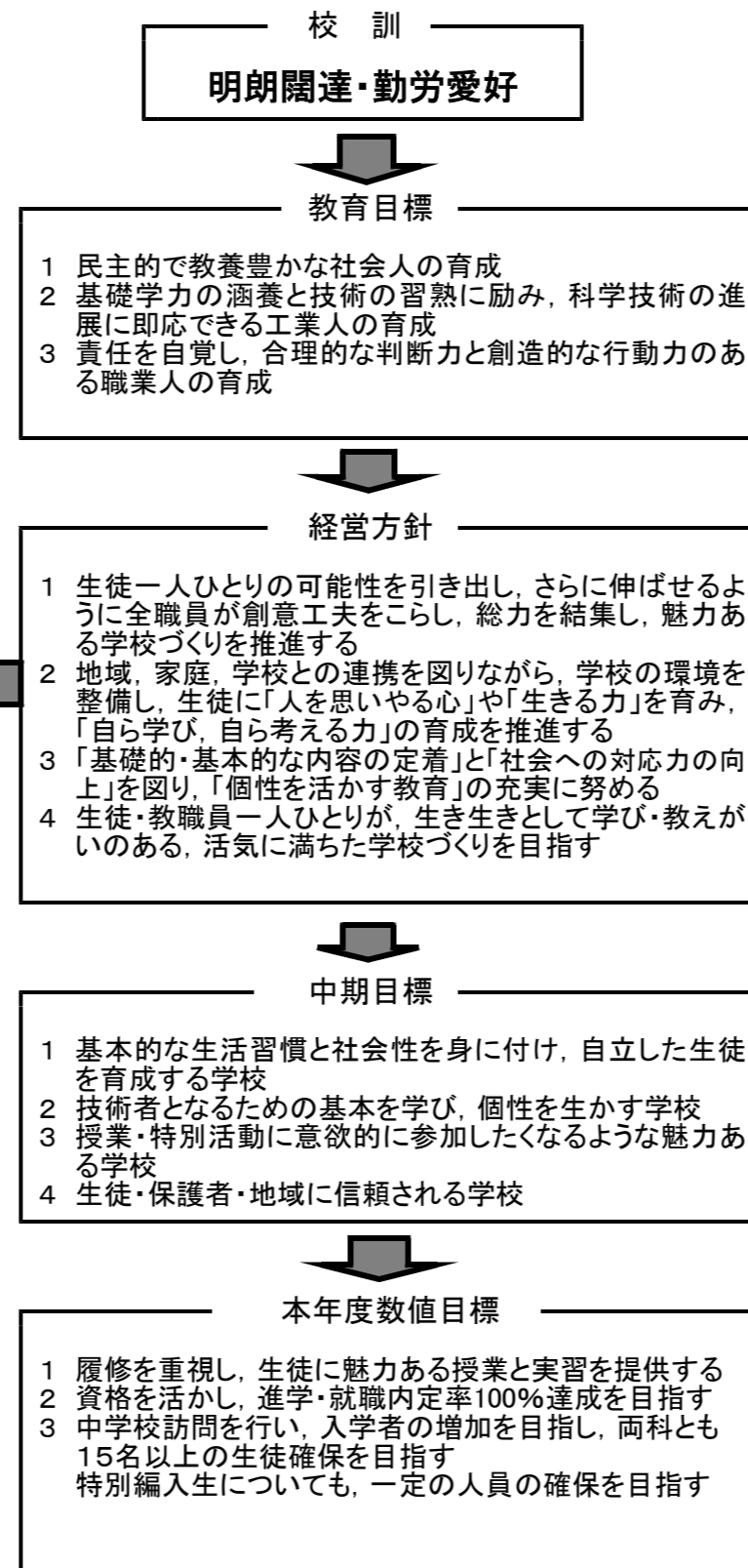
- 質問文の文言
質問項目の趣旨を変えない範囲で、各学校の実情や地域の実態に合わせた表現を可能とする。
- 共通項目の追加
「いじめ問題」への取組状況についての質問を追加する。

平成28年度 第二工業高校教育計画体系

重点目標・方策1

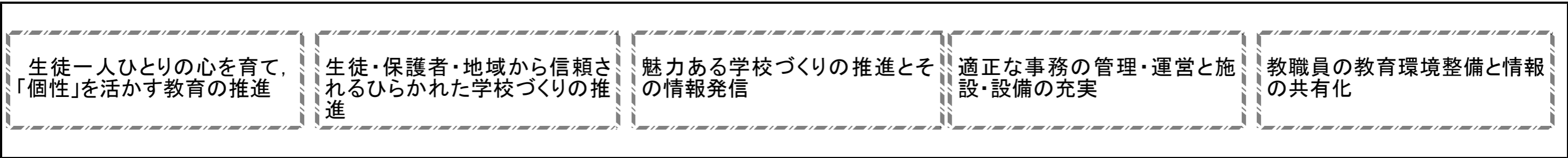
重点目標・方策2

A	生徒の一人ひとりの心を育て、「個性」を活かす教育の推進
1	学習指導 ①生徒の実態を踏まえた指導法・評価法を工夫し、きめ細かな指導を実践する ②基礎基本を重視し、生徒一人ひとりの基礎学力の向上を図る ③生徒の実態を踏まえ、学習の遅れがちな生徒を対象に補充指導を実施する ④専門教科は体験実習に努め、課題研究に取り組ませ、地域産業を支える人材を育成する ⑤工業の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、工業の役割を理解させる ⑥社会人としての教養を高め、時代に即応した工業人を育成する ⑦生徒の良い点や進歩の状況などを評価し、学習意欲の向上を図る ⑧視聴覚教材や教育機器の活用を図り、学習活動の充実に努める
2	生徒指導 ①基本的な生活習慣を確立し、特に挨拶と礼儀の指導を推進する ②進路部や各科の連携の下、LHR(進路・保健・給食・交通安全等)の充実に努める ③社会のルールを守り、交通安全教育を推進する ④日常生活指導は、学級担任、教科担任をはじめ、全職員が行うとともに、校門指導、校舎内外巡回指導にも努める ⑤生徒がやりがいを持って活動できるように特別活動(学校行事・生徒会活動・HR活動)の充実・活性化に努める ⑥定通体育大会・ものづくりコンテスト・EVエコラン大会等へ向けて、生徒の諸活動を充実させ、活性化に努める ⑦学級・教科活動を通して、図書室の活用を図り、読書活動の充実に努める
3	進路指導 ①各科・各学年と進路指導部の連携を密にし、LHR、SHRを活用し、「自己の在り方・生き方」の指導やキャリア教育の充実に努める ②生徒の職業意識の涵養と就職先の開拓・定着に努め、ハローワークとの連携を密にして生徒の進路目標達成を図る ③早期離職の未然防止に努める。 ④勤労と勉学の両立を図るため、適切な就業指導を行い、自立した職業人を育成する ⑤進路(進学・就職)のための補講・面接指導を行う ⑥就職に有利な各種資格取得を奨励し、その指導に力を入れる
4	学校安全・学校保健・学校給食 ①心のふれあいを大切に、きめ細かい指導と教育相談体制の充実を図るとともに、発達障害生徒への理解を深める ②自他の生命を尊重し、安全教育に努め、学習環境の整備に努める ③生徒・職員の健康保持・増進に努める ④スクールカウンセラーの協力の下、生徒・職員の心身の健康に留意するとともに、生徒同士と教職員とのふれあいを通して豊かな人間関係を育てる
5	教育の情報化の推進と情報モラル ①情報モラルなどの指導の充実に努める ②情報教育を支援し、授業においてコンピュータやインターネットを活用できる環境整備に努める ③教育情報の提供や他の教育関係機関とのネットワーク化に努める



B	生徒・保護者・地域から信頼されるひらかれた学校づくりの推進
1	①県の広報・学校案内・ホームページ・PTA会報・生徒会誌・学校新聞等を活用 ②家庭や地域と連携協力し、学校評価・授業評価を踏まえ、PDCAサイクルを活かした教育活動の向上に努める ③中・高連携を図り、特に仙台市内・仙塩地区・名取・岩沼市内の中学校訪問を実施し、生徒理解に向けたの情報交換及び生徒募集に努める ④PTAや同窓会との連携を密にし、教育活動を推進する ⑤諸活動の情報化を推進し、情報モラル指導や情報発信の充実に努める ⑥IT教育やキャリア教育、教育相談等の校内研修を通じて、教職員の資質向上に努める
C	魅力ある学校づくりの推進と情報発信
1	①電子機械科・電気科それぞれの特色ある教育課程の充実に努め、夜間定時制高校としての位置づけを確固たるものにする ②電子機械科は、ガス溶接等の資格取得に努め、工業人の育成に努める ③電気科は、電気工事士等の講座を踏まえ、資格取得に努め、工業人の育成に努める ④生涯学習の一環として、特別編入制度を活かして、社会人の受け入れを促進し、地域産業を支える人材を育成する。また、社会人も学びやすくするために、職場と連携を密にする ⑤多様な生徒(他校中退・不登校・発達障害等)への理解を深める ⑥県外視察の実施や研修機会を確保し、教職員の資質向上に努める ⑦生徒にとって学びがいのある学校であるとともに、教職員にとっても教えがいの研究のしがいのある学校を目指す ⑧ホームページや学校だよりを通じ、教育活動等の情報を発信する
D	適正な事務の管理・運営と施設・設備の充実
1	①適正な事務の管理・運営を推進し、適正会計に努める ②相談しやすい事務室運営に努める ③毎日の通学が楽しみとなるよう、学校給食・食事環境の充実に努める ④校内予算を工夫し、経営推進予算について、調査・研究を行う ⑤施設・設備の充実に努める ⑥学習環境の整備(習熟度別学習の選択教室、教育相談室の整備) ⑦県工との兼ね合いもあるが、トイレの洋式化やバリアフリー化に向けてエレベータなどの環境整備を研究する ⑧特別活動の充実に努めるための環境設備(シャワー室の整備など)を研究する
E	教職員の教育環境整備と情報の共有化
1	①教職員一人ひとりの力を結集し、よりよい教育環境づくりに努める ②校務分掌の組織(各部・各委員会)の見直しや改善に取り組み、校務の効率化にむけた取り組みを推進する ③生活指導においては、個人に負担が集中したり、孤立しないよう、横断的な校内チームを組んで対処する ④諸事においても、全教職員間の情報共有を促進し、校務運営を推進する
F	その他
1	①高体連定通部会事務局校として、県下加盟校のスポーツ活動の推進に寄与する(幹事会年3回開催:5・10・2月) ②定時制通信制教育研究会及び同学習・生徒指導部事務局の責務を果たす ③創立70周年を迎え、同窓会及びPTAとの連携を推進する

平成28年度重点目標



	目 標	実践事項	関連
総務部	1 PTA活動の活発化を図る。 2 同窓会との連携を図る。 3 防火・防災体制の強化(施設・器具の点検, 避難訓練, 防災教育の実施)	1 PTA研修会の在り方を見直し, 研修としてふさわしい内容を立案し, 活発化へつなげる。 2 全国大会後援会の運営を同窓会と連携し, 後援会活動の迅速化をはかる。 3 避難訓練を機に, 定期的に避難器具, 放送機器, 施設の点検を行う。 4 避難訓練を通して防災意識の高揚を図る。 5 緊急時の本校の対応を保護者向けプリントを作成し, 配布する。	B1 B4 A4 A4 B4
	目 標	実践事項	関連
	1 学校生活におけるルール・マナーの指導 2 授業を受ける態度の確立 3 質素・清潔・端正な服装, 頭髪の指導 4 授業への遅刻, 無断早退, 中抜けの防止 5 生徒会活動の活発化 6 喫煙・飲酒・薬物乱用の防止 7 通学車両に対する指導と交通安全の徹底 8 学校内外での生徒の安全確保 9 互いを尊重する生徒同士の人間関係構築	1 日頃から生徒に挨拶を含めた声掛けを垂範し, 生徒・教師が何でも話し合える関係を築く。 2 SHRや全校集会を通じ, 校外での相應しい生活や社会モラルを意識しながら生活するよう促す。 3 学校生活アンケートを実施し, 生徒一人ひとりの問題や悩みを把握し, 実態に応じた対応ができるようにする。特に, いじめは絶対しては行けない行為であることをあらゆる機会を捉え 啓発する。	A2 A2 A4
	1 定期健康診断, 給食指導・教育相談等により, 生徒の身体と心の健康づくりに努め, 「望ましい食習慣」の育成を図る。 2 教職員の「定期健康診断」「教職員生活習慣病検診」を実施し, 日常生活における健康の保持・増進に努める。 3 充実した教育活動ができるよう, 校内の施設・設備の充実を図り, 衛生的で快適な教育環境の整備を目指す。	1 給食指導, 教育相談, 保健室での指導を通じて, 生徒の心身の状態を把握し, 変化や異変に対して, 担任や他部との連携を図りながら, 早期対応に心がける。 2 教職員の生活習慣の改善について啓発し, その実践や心身の不安についての相談に応じることのできる体制をつくる。 3 掃除用具の計画的補充を図り, 清掃作業の実施環境を整える。	A4 A4 A4

	目 標	実践事項	関連
教務部(教務)	1 基礎的・基本的な学力の向上とともに, 意欲的に学習する態度の育成。 2 特色ある工業教育ができる教育課程の編成及び運用。 3 円滑かつ効率的な校務運営。 4 教務支援システムの導入	1 欠点保有者・学力不振者の対応を各教科・各担任へ呼びかける。 2 授業力の向上等を図るため, 授業評価の実践を呼びかける。 3 適切な時間割の編成と運用を, 各科との連携を密にとりながら取り組む。 4 各自の分掌業務, 課題の共通認識と対応策について, 部会等を通じて共通認識を深め, 業務遂行に取り組む。	A1 B2 A1 C1 E1
	(情報)	1 教育活動の情報化の推進と, 情報モラルなどの指導の徹底を図る。 2 教職員の教育環境を整え, 情報の共有化を図る。 3 情報セキュリティ対策基準の徹底。 4 県工高校との業務連携を図り, ネットワークの円滑な運用を目指す。	1 校内LANを用いた情報の共有化による業務の効率化。 2 情報セキュリティ対策基準の遵守。 3 ソフトウェア・各種機器・重要データの台帳管理。 4 校内LANの改良。 5 校内研修会の充実。

	目 標	実践事項	関連
進路指導部	1 生徒一人ひとりの自己理解の深化と自己伸長を促す。 2 きめ細やかなキャリアガイダンスを実施する。 3 キャリア意識の高揚と自主的に進路選択ができる力を育成する。 4 各種資格取得を推進する。 5 企業訪問を行い, 職場開拓・定着に努め, 早期離職の未然防止に努める。	1 進路講話の充実。 2 HRでの進路指導の充実。 3 生徒への進路関連情報の充実。 4 生徒の個人面接指導の充実。 5 各種資格取得の奨励。 6 企業訪問等による職場開拓・定着。	A3 A3 A3 A3 A3 A3

	目 標	実践事項	関連

	目 標	実践事項	関連
事務部	1 適正な校内予算編成に努める。 2 相談しやすい事務室運営を継続する。 3 会計の明朗化に努める。 4 学校給食における環境整備に努める。 5 施設・設備の充実に努める。	1 校内予算委員会において忌憚のない意見を求め, 施行する。 2 明るい雰囲気をつくり, 何事も相談・報告を実践する。 3 定期的に帳簿検査を実施し, 会計事務を円滑にする。 4 給食備品の計画的な令達要求から, 衛生的で効率的・機能的な給食運営に努める。 5 安全・安心な学校運営が実施できるよう, 環境整備に努める。	D4 D2 D1 A4 D5

	目 標	学年	実 践 事 項	関連
電 子 機 械 科	<p>■電子機械に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、工業における電子機械の意義や役割を理解させるとともに、電子機械技術の諸課題を主体的・具体的に解決する能力と態度を育てる。</p>	1年	数値処理に対する苦手意識を払拭させ、教科に対する興味・関心を高める指導を行う。	
	電子機械及び情報技術に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	2年	各種機械の操作や器具の取扱いの習得を図り、実践的な技術に対応できる能力を養う。	
	電子機械及び情報技術に制御技術を結合させ、システムの思考を養うとともに、工業技術の発展に果たすべき役割について理解させる。	3年	実習と座学を関連づけ、先端技術についても将来をふまえながら学習させる。	
	電子機械技術を用いて、電子機械の設計・製作方法などの諸問題を主体的・合理的に解決し、実際に活用する能力を育てる。	4年	物事を多面的にとらえ、問題を自ら解決する能力を養う。	

	目 標	学年	実 践 事 項	関連
電 気 科	<p>■電気技術に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、電気設備及びこれに関する諸分野の業務に従事するために必要な能力と態度を育てる。</p>	1年	電気基礎を中心に、基礎学力の向上と低学力克服へ取り組ませる。 電気工事士養成講座を通して、知識と技術の向上や資格取得を目指す態度を育む。	
	1 工業及び電気工業における諸分野の基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	2年	基礎学力の涵養と技術の習熟を図り、各種の資格取得に取り組ませる。 学力(計算力)の高い生徒へ、第二種電気工事士の受験にチャレンジさせる。 情報教育の一環としてP検を受験させ、知識と技術を習得させる。	
	2 電気事業の公共性を理解させ、電気技術者として社会に貢献できる素地を養う。	3年	各種の資格取得を目指して、自ら学ぶ意欲・態度を高める。 第二種電気工事士を習得させ、第一種電気工事士の受験にチャレンジさせる。	
	3 電気に関する応用についての概要を理解させ、電気技術の諸問題を主体的・合理的に解決し、実際に活用する能力と態度を育てる。	4年	各種の資格取得を目指し、実験実習を通して知識と技術を習得させる。 電気工事士の資格取得を確立し、進路を念頭に自ら学ぶ意欲をさらに高めさせる。	
	4 コンピュータに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、主体的に対応できる能力と実践的な態度を育てる。	特編	専門知識の習熟を図り、電気工事士の資格取得を目指す。 その他の資格取得を目指し、実験実習を通して知識と技術を習得させる。	
5 電気関係の資格取得を積極的に推進し、実際に活用する能力と態度を育てる。				

4 「学校評価」アンケート集計結果

(1) 評価方法

項目ごとに「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「思わない」の実数について集計する。

(2) データについて

レーダーチャート・・・回答をポイント化（「そう思う」＝5ポイント、「大体そう思う」＝4、「あまりそう思わない」＝2、「そう思わない」＝1）し、各項目の平均値を算出した。

(3) アンケート結果について

(A) 全体概要

①保護者からの回収率は、今年度は84%から90%と上昇した。

※保護者の回答に一部無回答の項目があったが、カウントに入れていない。

②すべての項目において、保護者は肯定的な回答傾向（「そう思う」・「大体そう思う」）にあり、本校教育活動への一定の評価を得られていると思われる。

生徒・教員は同じような回答傾向が見られ、ほぼ肯定的な回答となっている。

(B) 生徒・保護者・教職員における回答比較（平成28年度レーダーチャート）

①生徒・保護者・教職員のいずれでも4ポイントを超えている項目。

1（学習指導）、2（生徒指導）、3（進路指導）、4（教育相談）、6（生徒会）、9（防災教育）、10（情報発信）、12（いじめ問題）13（充実度）、14（資格取得）、15（授業づくり）、16（授業力向上）、17（個別指導）

②肯定的回答傾向が見られるものの、三者によって評価にばらつきがある項目。

5（部活動）、8（地域連携）、11（施設設備）

(C) 生徒・保護者・教職員における経年変化（過去3年）

資格取得を重視していることから14（資格取得）の評価が高い。

8（地域連携）、11（施設設備）の評価が低い。

①生徒：2（生徒指導）、5（部活動）、6（生徒会）、10（情報発信）、12（いじめ）17（個別指導）で評価が高くなっている。特に5、6は今回始めて平均値4以上になった。

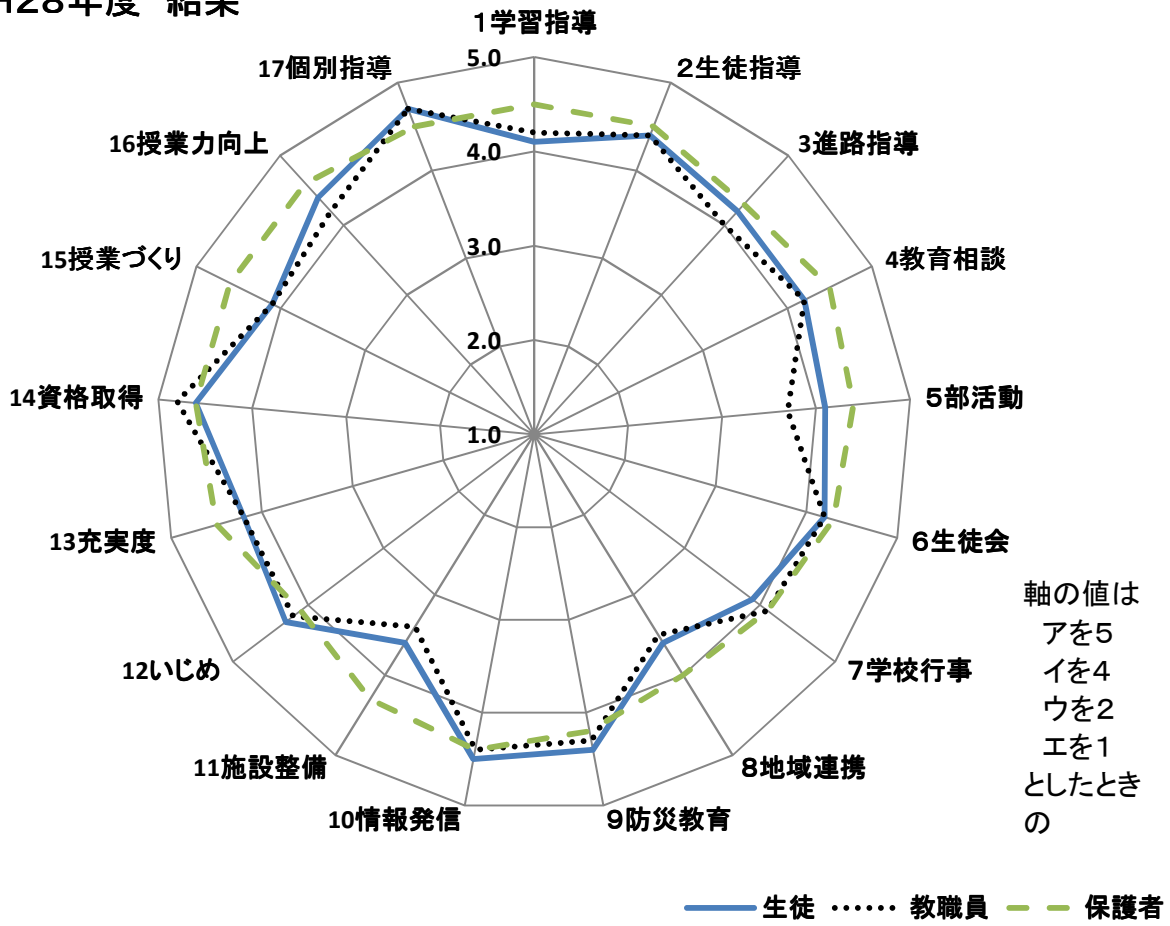
1（学習指導）、3（進路指導）は平均値4以上であるが、前年度より若干低い評価となっている。11（施設設備）は評価が更に低くなっている。

②保護者：例年と同じ回答傾向が見られ、すべての項目において、平均値が4以上となっており、肯定的回答を得られた。

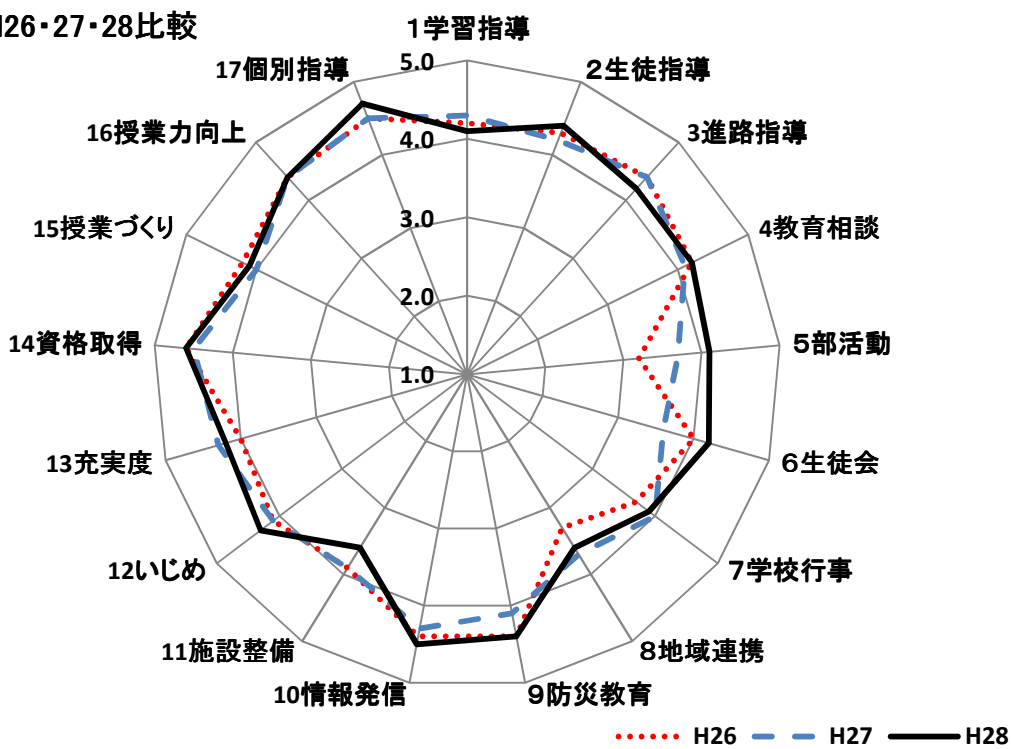
③教職員：14（資格取得）、17（個別指導）の評価が高い。

5（部活動）、8（地域連携）、11（施設設備）の評価が低い。5に関しては年々評価が高くなっている。

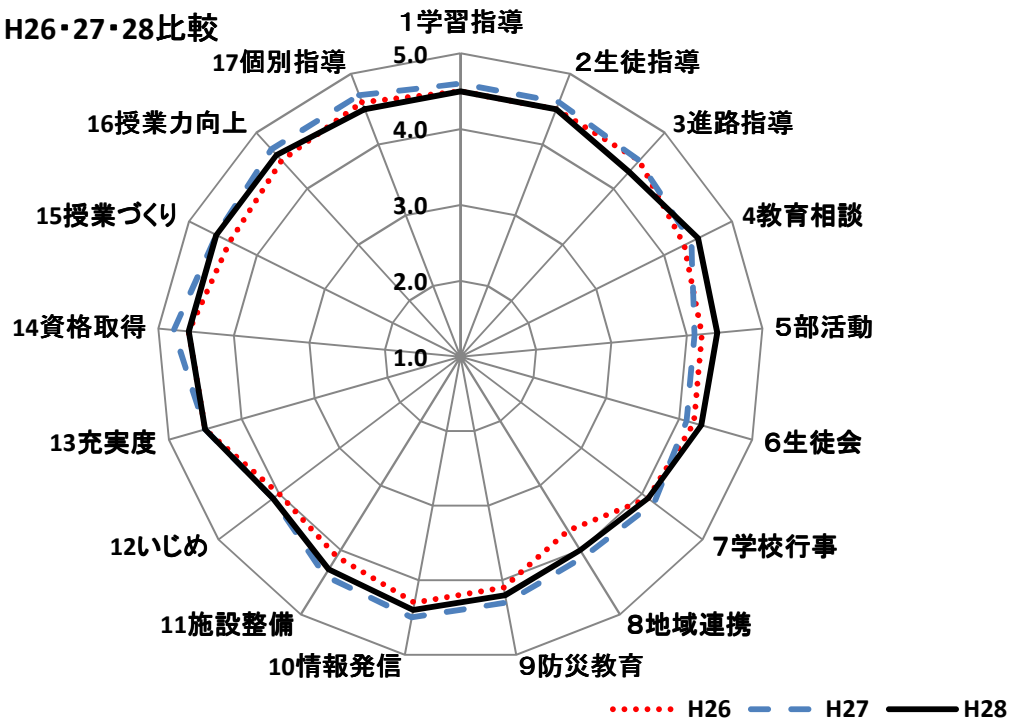
H28年度 結果



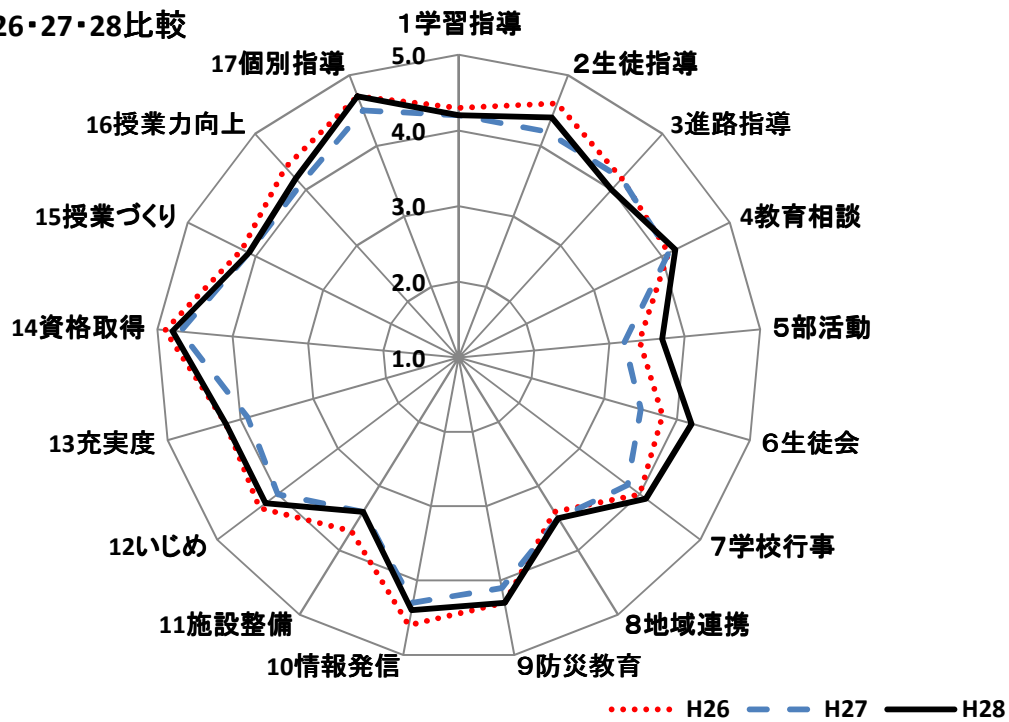
生徒 H26・27・28比較



保護者 H26・27・28比較



教員 H26・27・28比較



5 自己評価を踏まえた学校関係者評価報告書(平成28年度学校評議員4名による評価報告書)

1 本年度の重点目標

- (1) 生徒一人ひとりの心を育て「個性」を活かす教育の推進。
 (2) 生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりの推進。
 (3) 魅力ある学校づくりの推進とその情報発信。
 (4) 適正な事務の管理・運営を推進し、施設・設備の充実を図る。
 (5) 教職員の教育環境を整え、情報の共有化を図る。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 学ぶ意欲を引き出す授業について	A	必要に応じて補習授業を充実させ、個別指導を含めた指導を行い、基礎学力を向上させるとともに、苦手意識を克服する。	A	A
	② 基礎・基本的な学力の向上について	B	生徒の理解度に応じた学習を展開すべく、工業科目・数学においてはT T (複数教員) によるきめ細かな指導を行う。	A	A
	③ 特色ある工業教育について	B	基礎・基本的な知識・技術を習得させ、技能の定着を図るとともに、主体的に対応できる能力と実践的な態度を育成する。	A	A
	④ 資格取得への取り組みについて	A	各種資格取得を推奨し、より多くの資格を取得することにより、学ぶことへの意識の高揚を図る。	A	A
学校関係者評価者による意見	資格取得状況ひとつみても年々上昇の兆しがあり、学校と生徒の一体感が感じられる。生徒の熱心な授業態度は素晴らしいと思います。先生方も頑張って教育してくださっている。				
生徒指導	① 基本的な生活習慣について	A	落ち着いた学校生活を送れるよう全職員で挨拶と礼儀の指導を推進するとともに、通年で校門指導や校舎内外巡回指導を実施する。	A	A
	② 生徒会活動について	A	生徒自治の気風を醸成すべく、継続して指導し自主的な活動に結びつける。部活動については、生徒の要望に応じていく。	A	A
	③ 学校行事について	B	芸術鑑賞会や校外スポーツ行事(ボウリング)を実施し、宮二工生の帰属意識の高揚を図った。各種行事への保護者・米ヶ袋町内会の方々の参画を検討していく。	B	A
	④ 生徒の安全確保について	A	関係機関の協力を仰ぎ、交通安全教室、防犯・薬物乱用防止教室実施とともに、命の大切さを考えるための機会設ける。	A	A
	⑤ 良好な人間関係について	A	日ごろからの生徒への声かけ、昇降口・校門における登校指導を継続した。いじめの未然防止のためのアンケートを定期的実施し、生徒一人ひとりの問題や悩みを常に把握・即応する。	A	A
学校関係者評価者による意見	個人の個性を伸ばす教育が大切かと思えます。地元の町内会に住む者として先生と生徒の触れ合いを見ているがすばらしい。個々の生徒の問題点を把握することは難しいと思えます。				
進路指導	① 自主的な進路選択について	A	7年連続進路達成率100%に向けて、生徒個々に応じたきめ細かな進路指導を実施し、生徒の職業観・就労観の醸成を図る。	A	A
	② 職場の開拓について	B	進路指導担当の職員や就職支援員による就職相談・講話や、企業訪問をとおして、新たな職場開拓・定着に努め早期離職の未然防止に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見	皆さんの進路も決まって「ほっと」しています。厳しい経済環境の中で学校側の努力、アフターフォローともに良好である。				
その他	① 学校の情報発信について	A	生徒の学校生活状況や活躍を伝える「PTAだより」・「m2kだより(学校だより)」の更なる充実を図る。	A	A
	② 防火・防災対策について	A	防災マニュアルを常に見直し実態に合せるとともに、夜間の避難訓練の在り方を検討する。また防災講話へ地域防災担当者が、将来的には学校・地域合同訓練を研究する。	A	A
	③ 地域や伝統に根ざした学校づくり	A	「米ヶ袋をきれいにし隊」の年3回結成とともに、町内会への「m2kだより」の掲示を図る。また、AED設置と職員講習を通じ、『応急手当協力事業所』となり、地域貢献・地域連携を推進する。	A	A
	④ 学校生活の充実について	A	専門高校の特色を活かした学習と、定時制ならではの少人数によるきめ細かな指導に努める。	A	A
	⑤ 心の相談の体制について	B	スクールカウンセラー・教員の連携をより密にするとともに、事業・機会を捉えて情報交換を行い生徒理解を深める。	B	A
	⑥ 入学生募集(中学校訪問)について	A	1学年においては、必要に応じて年度当初に中学校訪問を実施し入学生の情報交換を継続実施するとともに、秋季・受験期における受験案内を発信する。	A	A
学校関係者評価者による意見	礼儀正しい生徒、挨拶ひとつとっても立派な高校生である。宮二工の良さをもっと多くの中学校などに広報していただきたい。先生方も頑張って教育してくださっているのをお任せいたします。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 進路指導について	生徒の職業意識の涵養と就職先の開拓・定着に努め、ハローワークとの連携を密にして生徒の進路目標達成を図るとともに、早期離職の未然防止に努める。
② 地域や伝統に根ざした学校づくり	各種行事への米ヶ袋町内会役員への参加案内、生徒・保護者・教職員有志による地域清掃活動「米ヶ袋をきれいにし隊」等を継続・発展させ、地域防災を視野に入れ、同町内会との連携に積極的に取り組む。
③ 情報発信について	学校ホームページを充実させるとともに、更新を適時に行う。少人数であることを活かし、平成27年度より実施しているクラスPTA回覧板「コニコ回覧版(今月の宮二工の略)」を継続展開し、保護者あて持ち回り回覧による学校情報の確実な伝達を行う。